

令和3年度 第2回 沖縄県 SDGs 専門部会 People（人間）部会
議事概要

日時：2022年3月3日(木) 9:30~11:00

場所：沖縄県庁 ほか（オンライン会議）

出席者：

（委員）

大城りえ委員、島袋委員、島村委員、野入委員、涌波委員

（沖縄県）

島津 SDGs 推進室長、SDGs 推進室 平良主幹

（事務局）

皆さん会議慣れしているかと思うのですが発言時以外は、ミュートでよろしく願いいたします大城委員が欠席となっております。第1回会議におきまして島村委員がご欠席でしたが、本日は参加いただいております。一言ご挨拶をお願いします。

（島村委員）

どうも沖縄大の島村です。よろしく願いいたします。前回大変失礼いたしました。ちょっと重なっていて出られませんでしたけど、今回資料を見せていただいたのと、事務局の方からも説明をいただいております、その件についても色々できる限り意見を述べていきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。それでは議事の方に移らせていただきたいと思います。ここからは進行の方で進めさせていただきます。

（進行）

改めまして皆さんおはようございます。どうぞよろしく願いいたします。前回12月に皆様に沖縄 SDGs アクションプラン骨子に対してのご意見を頂戴いたしました。市町村、関係団体等の意見を取りまとめまして、推進本部において3月1日にこの素案という形で取りまとめております。本日はこの素案について広くご意見をいただきたいと思います。忌憚のないご発言どうぞよろしく願いいたします。それでは議事を進めてまいります。まず初めに事務局より資料の方の説明をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

（事務局）

資料の説明をさせていただきます。資料1からご説明させていただいて、資料2はポイント

を絞って説明いたします。時間の制約もありますので、ご了承いただければと思います。

まず資料 1、1 ページ目、こちらは検討の経緯です。これは第 1 回の会議でも提示させていただいたもので、今どこまで検討が進んでいるかを示したものです、12 月の専門部会の後に、関係団体、市町村の意見照会をさせていただいて、意見を踏まえた整理の上、ローカル指標、SDGs のゴール、ターゲットを整理しました。先日、沖縄県 SDGs 推進本部会議で素案を決定しました。SDGs 専門部会から意見をいただきながら、同時並行で関係団体、市町村に改めて意見照会させていただいております、3 月末にアクションプラン案をまとめ、パブリックコメントをかけて 5 月に決定するとうスケジュールで進める予定をしています。また、アクションプランは決定後、毎年見直していくということを想定しています。不十分な部分もあるかもしれませんが、モニタリングを行いながらアクションプランの内容、指標等の見直しを行っていきたいと考えております。

次のページです。今回の素案が骨子から主にどう変わったのかをまとめております。1 番目、委員や市町村、各種団体の多様なご意見を踏まえ、内容を再検討しております。アドバイザーボード会議の方からの SDGs のグローバルな視点を入れるべきだという意見があり、全体的に整理を行いました。

次にゴール・ターゲットを追記しました。

さらにローカル指標、目標値を設定しています。ローカル指標の設定は（1）の方にあります通り、国連のグローバル指標、国際指標、内閣府の地方創生ローカル指標があること、新たな振興計画関連の指標があることを明示しています。新たな振興計画の指標に関連するに関しては、各専門分野の審議会、有識者会議でも議論されていますので、重要な指標であると捉えております。

全体を通して目標値を設定する予定ですが、新たな振興計画の指標は、令和 4 年度に指標や目標値を設定する予定のものが、「令和 4 年度に設定する」というふうに明記させている指標があります。

次に、重要な視点という項目を追加しております。前回会議でも誰もが生き生きと活躍できる社会という、そういう大きなコンセプトで進めるべきだというご意見をいただきました。アクションとか目標の個別に落とし込むことが難しいため、前段の方で大きく設定しています。人間の安全保障という考え方もありますので、そこと絡めて少し入れたということと、あとはジェンダー平等についても全体に関わるものだというご意見も多々ありましたので、アクションの一覧の中の一項目に入れるだけではなくて全体にかかる位置づけとして整理をしております。

次に、SDGs において、色々な課題を統合的に解決する考え方がありますが、具体的にイメージし難いというご意見もあります。具体的なテーマで具体的な取り組みを議論しないと、イメージが湧かないというご意見も他部会でもあり、テーマごとにモデル事例というのを作っています。テーマが五つありまして、脱炭素等から始まって地域づくりまでございます。今後また専門部会のご意見も踏まえながらテーマを増やすなど、内容も追加していくと

いうことを想定しています。他のテーマについてもご意見いただけるとありがたいなと思っております。

次のページですが、第1回でもお示した資料をベースに変わったところに赤線を入れています。目標に対してのゴール・ターゲットローカル指標という入れ方をしております。後ほど説明しますが、実際のアクションプランの目標等を表資料では、アクションの横に指標が載っているのですが、アクションと直接繋がってないと誤解を与えやすく、多数のご指摘が他専門部会でもありました。指標は目標に関して設定していると理解いただければと思います。また、統合的なモデル事例というのを追加しており、随時テーマなどを増やしていくという考え方になります。右側は推進体制、プラットフォームを記載しています。

次のページをご覧ください。指標の設定にあたってグローバルスタンダードの視点を入れるべきだというご意見がありましたが、非常に分野が幅広く、情報量も非常に多いので、どういうふうに整理していくか、検討の入り口の考え方を整理したものになります。指標についてはグローバル指標、国際指標というものとローカル指標について先ほど言った内閣府の地方創生ローカル指標があります。

内閣府のローカル指標は見直し検討中ですが、この指標をもとにした都道府県、市町村の取組状況をスコア化したデータベースがあります。これはローカルSDGsプラットフォームという法政大学の川久保研究室が作っているもので、このプラットフォームを見ると都道府県、市町村の比較ができるというそういうデータベースになっています。

指標の分析に関する先行事例として大阪府があります。大阪府では国際的な日本の指標という軸と、国内における自治体の評価の2軸で指標分析をしています。国際的な評価についてはSDSN、国内評価はローカルプラットフォームを活用しております。当方の検討の入口の段階では、こういったことも踏まえながら検討していこうということで作業させていただきました。

結論から先に言うと地方創生ローカル指標で分析をすると他地域との比較が可能であるというのは非常に優位な点になります。ただ、分析結果と地域の課題認識にズレが生じる可能性があるというのは、これはあくまでも指標の設定の仕方によって結果が変わるということでございます。これは非常に色々なランキング調査とかでも出てくる話で、何を指標に設定しているかというところで大きく変わってくるなというのは、やはり今回の作業の中で感じたところです。

これは国際指標、内閣府のローカル指標の一覧の抜粋です。SDGsの17ゴールの「貧困をなくそう」というゴールに関する部分です。貧困ラインの話であると年間収入階級別の世帯割合というのがデータとしてあります。これは15,000人以上の自治体をベースに公表されているため県全体を把握する指標として難しいにではないかと考えております。

その他にも、ローカル指標が決定していないものや、公共インフラのサービスに対して上下水道普及率が入っていたりしています。

次のページは国際指標による分析、ローカルSDGsプラットフォームの説明です。

次のページは、大阪府の事例を明記しています。国際的に日本の評価が高いものと低いものというのを17のゴールで分けて、さらに大阪府のスコアが高いもの、スコアが低いものというのを分けて分析した結果です。

次のページは、大阪府の事例をベース、沖縄に当てはめて分析してみました。そうすると、国際的な指標で見て貧困問題で日本は高いスコアにあって、かつ、自治体指標で見ると沖縄は高いスコアになっていました。一方で、沖縄県の子どもの貧困問題は重要な施策課題となっており、ズレが出ていると考えています。そのため、下線にあるとおり、地方創生ローカル指標だけを使うのではなくて、実情に応じて独自の指標設定が必要だということになってきました。

次のページは、それらをベースに仮に整理し、分析をした時に、指標を国際指標から優先的に考えるか、ローカル指標から検討するかを視点を四つに分類したものです。国際指標、地方創生ローカル指標という順番で見ながら実情に応じて目標を設定、指標設定していく方向で進めることとしました。

次頁から、このようなアプローチで整理をしたということで、指標として全部59ありますけど整理をして目標設定について議論をしていったりしているというところでございます。例えばこういうひとり親家庭、一番上がいい。失礼しました。こういったLGBT関係の多様な性の問題という話になるとあんまり国際指標の中で設定がされていなくてとか、地方創生SDGsの指標でもない、そういう意味では独自の指標を設定すべきだなということで設定した指標もございます。他にはジェンダー関係だと管理職に占める女性の割合が国際指標として設定されていますので、国際指標を使うこととしました。また、医師、医療体制に関しての国際指標はありませんが、地方創生SDGsの指標だと1人あたりの医師数がある、これらに準じて指標を設定しました。

12ページの脱炭素関係では二酸化炭素排出量を指標設定していますけども、これは国際指標には無いです。自の指標として設定していますが、パリ協定の関係で国際的にこの指標が使われているということで、SDGsの国際指標ではないけども国際指標として考え方を整理しております。再生可能エネルギーの電源比も国際指標にありますので、優先して使用しています。このように、指標ニーズのそれぞれに応じて国際指標もしくは内閣府の指標、それから独自の指標の整理をしたというのが今回のものでございます。

次に15ページをご覧ください。報告事項ではありますがポイントだけご説明させていただければと思います。他の部会で「具体的な取り組みをどんどん進めるべきだ。」といったご意見を多々いただいております。来年度はプラットフォームというのを作るというのは冒頭でもお話ししましたが、会員登録をしていただいて、みんなで連絡が取れるようなグルーピングをしていくというのが一つです。県内ということで県内の企業、団体、市町村、個人の方々にも入っていただくと考えております。特にアカデミアの方々には団体というよりは個人としてお入りいただいた方がいろいろご意見聞けるかなと思っていたりします。また、ローカルで閉じずに県外の方々にも入っていただく枠組みとして作り、サポートをす

る事務局を構築し、セミナーやテーマごとのミーティング、プロジェクト立案等を進めていこうということを考えております。プラットフォームの中で色々な官民連携とか、企業間連携とかいうことも進めていきますし、当然プラットフォームの上にあたっては参加している会員の皆様にアクションプランを実現する方向で進めていければと思っているところでございます。

最後の16ページはそのプラットフォームの細かい話を整理しております。これは後ほどご覧いただいて何かありましたらご意見いただければと思います。

資料2の方を簡単にご説明させていただきます。資料2ですけども1ページ目から2ページ目は元々の内容を充実させたという経緯ですので割愛させていただいて、4ページになります。4ページは新たに追加した項目になっています。(1)の全体に共通する重要な視点、これは実施指針から持ってきているものですけども、SDGsの五つの原則というのが国連のアジェンダの方にも書いてありますのでこういう視点は大事ですよというのを改めて明記しているということと、その他バックキャストの視点とかSDGsの要素的なものを1回この左側の方にまとめております。大事なのはこの右側の方で、重要な視点ということで3段落ぐらいを整理しております。一つ目は統合的な取り組みが必要ですよと。かなり表形式でいろいろなアクションとかをまとめていて、ただその後段の資料になりますけど、1個1個のアクションを単発でやれば良いという誤解が生じないようにというご意見も多々ありまして、それで組み合わせていって複合的に解決していく。みんなで連携して色々な課題を解決していく視点が大事と記載させていただいています。

2パラ目が人間の安全保障という考え方で、ここは人間部会の方から意見も踏まえながら全ての人が自分らしく生き生きと活躍できる社会ということが大きな考え方として重要だということで、人間の安全保障の視点。こういったものを重視していきながら進めていこうということを入り口として書いています。

これに関連してジェンダーの平等の観点で整理をしていて、ジェンダー平等はアクション目標の一つに入っておりますけども、そうではなくて全ての取り組みに入れるべきだというご意見、多々関係団体の皆様からもご意見がありました。もともと国連の考え方でもジェンダー平等、エンパワメントの件についてはSDGs全体を進めていく上で重要な手段だという位置付けになっております

あとは国の動向をちゃんと入れるべきだというご意見があり、国のトレンドの部分先日12月の閣議決定で決まったものですけど、重点項目として明記をしております。これは毎年入れ替えていく形になるかと思っておりますけど、コロナ対策も含めたグローバルヘルス、女性活躍、デジタル田園都市ですね。クリーンエネルギー、海洋プラスチックごみ。これはちょうど今は国際的な会議で色々議論されているところです。国の動向というか方向性というのを入れながら、分かるようにしながらまとめていきたいということでございます。

ここからはアクションで、ポイントだけご説明させていただきます。第1回大城委員と涌

波委員、社協の大城委員、涌波委員の方からバリアフリーに関し、見える形のそういう対応もあるが、発達障害も含めてなかなか表に見えにくい障がい者の方々への支援ということもちゃんと含めないといけないということがありました。こちらは大枠としてこの目標の書きぶりを変えさせていただいて、とにかく全ての人々にとってと。課題を持つ全ての人たちにとってということで、大きく受けるような形でまず整理をしております。

多文化共生の所についてはいろいろご意見がありました。なるべく反映する方向で整理をしています。特に子どもたちが教育を受ける権利を保障する視点については、国の方もその方向で動いていて、自治体にも通達が来て取り組みが始まっているところです。ミスマッチ等もあって十分ではないところも課題であるなど、教育庁との意見交換等で確認しております。外国人の子ども達の孤立を防ぐという記載部分については、地域とのつながりも入れるべきだというご意見が他の専門部会でもあり、検討していきたいと思っております。

①-5については、元々ディーセントワークで目標設定しておりましたが、言葉自体が分かりづらいということ、誤解を生じるのではないかとご意見がございまして、大きく読めば分かるように整理をし直しております。安全安心で充実感をもって働くことができる労働環境。そういった形で整理をし直しました。

2の医療関係についてはすべての人々に対する普遍的な医療提供というところでSDGsのグローバルな視点も整理しながら見直しました、離島へき地の医療体制だけではなく、外国の方を含め包括的な視点をもう少し入れられないかというご意見があり、検討をさせていただこうと思っているところです。

時間の関係から、前回会議の中でお話いただいたこと全部に対応をご説明することが難しいので、ポイントだけ説明させていただくと、大城りえ委員からご意見があったのは男性の視点が無い、子育てに対する男性の参画という観点がありましたので、意見を踏まえて追加をさせていただきました、幼児、保育の質の話については少し教育の視点が入るような形で整理しています。

教育のところでは島袋委員のご意見も含めて1人1人が自分らしくというところが一番上にくるような形で整理をしているということと、島くとうばについては多様性ということも尊重すべきという意見反映しております。

24 ページ目の方からモデル事例の絵を掲載させていただいております。経済、社会、環境の3側面から相互関係や相乗効果などをまとめています。脱炭層社会に関する整理をしています。

次のページですが、食品ロス、サーキュラーエコノミー。これは環境部会と産業部会、繁栄部会の方で経済界の方の意見をまとめたものになります。次のページは健康寿命の実現とスポーツ振興ということで、この生活習慣病、健康的な生活習慣の普及と健康スポーツに関する産業育成と、またそういった取り組みに対して沖縄の豊かな自然を使ってより付加価値を上げていくという取り組みを3側面連動させてやっていくことを整理しています。

次のページは、子どもの貧困の解消ということになります。

子どもの貧困対策計画で沖縄県の方で進めさせていただいております。島村先生にも色々ご意見をいただいているところです。そういった取り組みと合わせて所得向上に向けた取り組みと、フードドライブということで貧困世帯への取り組みというのが活発に動いていてこういった取り組みにいわゆる食品ロスの解決等も含めて三角形、この3側面の連動というイメージを作っております。

最後にこの誰もが活躍できる地域づくりというところで社会のところでコミュニティづくりは教育も含めて整理をしつつ、働き方、もしくは地域コミュニティに関するコンテンツとして、環境も入れつつ文化面も入れた形で連動させて進めていく。そういうことで地域づくりということができないかと。これはかなりエッセンスを凝縮しているので、ご意見も踏まえながらまた整理をし直していこうかなと思っているところでございます。この中で島村委員の方から以前意見交換会の中で、公営住宅と福祉機能ということでご意見いただいた経緯もございます。島村委員の方からお話があったとおり、公営住宅を作る時にその中には福祉機能というのは基本的に入れる方向で制度ができていて、制度とか含めてまたボトルネックがありそうなので、今そこを整理する方向で関係部局と調整させていただいております。

駆け足ではありますが意見交換の時間も取りたいというところもありますので資料の説明は以上とさせていただきます。よろしく申し上げます。

(進行)

事務局ありがとうございました。非常に悩みながら県の中でもローカル指標の設定をして参りました。アクション一つ一つに指標を紐付けるとかなり難しい作業でしたので、先ほど平良の方からありました通り SDGs 推進の目標に対してのローカル指標という形で指標を設定したところであります。どうぞまた忌憚のないご意見ご質問等で構いませんのでよろしく申し上げます。手上げ方式ですが、また私の方から指名をさせていただいて、住宅の流れもありましたのでまず先に島村先生いかがでしょうか。

(島村委員)

ありがとうございます。トータルな視点から見て今回社会的な包摂という概念。これは一番重要概念の中で整理されていると思いますね。参画という問題というのと整理されている五つの中に入っていますが、SDGs という考え方でこれまで県がやってきた施策が様々あって、SDGs という概念を入れることによって統合的モデルを作ろうという流れ。これは非常に理解しやすいです。というのは、すでに縦割り社会。縦割りがすごい。縦割りのプランをただそれに屋上を重ねるような SDGs という概念を持ち込むというのはおかしいわけで、統合することによって解決できるということを提案していこうという流れは本当にそれで正しいだろうと思っています。その際に大事なことがあって、障がい者であれ LGBT の問題、

つまり性の多様性の問題とか、どの分野でも言えることだが、いわゆる当事者と言われていくような人たちがいて、これまで僕が疑問なのは、いつも問題を当事者の方に押し込められていくということで、差別や偏見という問題をなかなか本人の責任にしてしまう、自己責任論的になってきたというところを解消するという、そういうことがとても大事だと思っていて、その一番のポイントはやはりさっきの参画という問題じゃないかと。社会的排除という問題を包摂型に変えるには、この本人のどんどん参加していく、そういうチャンスをもっと広げていかなきゃいけない。けど、今は結局入り口の所で排除されている。それを変えていくにはもちろん一つは本人、間口を広げる。社会環境を変えるという側面が必要です。何を言いたいかというと、象徴的なのがこのユニバーサルデザインの指標が出ています。そこを見てもらうといいのかな？そのところ01の指標だったかな？なんかに出ているはずだけど、その時に単純にバリアフリーの審査に通ったような件数でカウントしていくというカウントの仕方は、本当はその筋からするとおかしいなと思っているんです。そのバリアフリーを実現するためにそこに本人たちがどれだけ関わったかという問題を考えていかないといけないというところなんです。例えば公共建築物を作るでしょう？その時に当事者が意見を言わずに設計者がどんどん作っているという実態があって。で、でき上がってからクレームが出るという。まだこういう問題が起きています。で、身近で言うと「なは一と」という施設が、市民会館ができましたよね。それもそうです。出来上がってから内覧会を開いて、障がい当事者の方に見てもらおうと、さっきの野入さんの話じゃないですけど、外国人さんが来た時に言葉が分からない。サインが分かりにくいです。障がい者から見てもサインが分かりにくいという話になることは、皆にとって分かりづらいということになるんですね。そういう重要な視点が抜けてしまっている。だから、指標を取る時に単にそういう数ではなくて、どれだけ参加したか。参加したというポイントを押さえていくとかね。そういうような考え方がとても僕は大事じゃないかなと思うんで、それが自己効力感アップというか、本人がどんどん効力化して参加していこうという意欲につながっていくという、そういう流れを作らなきゃいけない。で、その際にどうしても問題が出るのが縦割り問題とか行政の縦割りです。もうこれはさっきの住宅問題で分かる通りで福祉の政策を住宅当局が入れていくというのは今まで全く考えてもいなかった。でも、入れることでその住人の生活安定に絶対繋がると分かっている。やれば、そういうのを推進しようとしていかないといけないでしょ？で、これは行政の縦割りなんだけど、民間は既得権問題なんです。これは私も実は県の住生活基本計画という計画を今作っているんで、その委員にいますけど、委員のメンバーの中に意見が対立するという。対立まではいかないけども異論が出るというか。それは既得権なんですね。不動産業界さんとか、そういう業界さんからの一つの問題提起が出ちゃうということがあるので、どうやってこの民間の方も既得権を変えていくか、既成概念を変えていくか、ということにすごく想定した理念をパンと出せるかどうかというのが、SDGs をすごく推進する役割というか意味になっていくのかなというふうに思いました。ざっと話すとその辺を感じたところなんです。

(進行)

島村先生貴重なご意見ありがとうございます。まさに行政の縦割りということではなくて我々推進室を拠点に横串を刺して統合的なモデル事業という形で推進していけたらいいなというふうに思っているところです。ユニバーサルデザインのところのこの目標指標、当事者の視点を持ってということ少し内部で検討させていただきたいというふうに思っております。ありがとうございます。では続いて野入先生いかがでしょうか。コメントありましたらよろしくをお願いします。

(野入委員)

ありがとうございます。私はお伝えした意見を本当によく盛り込み、すでに関係部局との調整を進めてくださっていることにまずはお礼を申し上げます。大変なご苦労がある作業かと思えます。その中で特に私の専門と関わる優先課題①-3、「様々な国の生活、文化が理解され、誰もが住みやすい地域の形成を実現する。」のところでも申し上げた2点目にあるすべての子どもたちが教育を受ける権利の保障というところで、これは本来でしたら国が政策として、外国籍の就学先不明の子どもが出ないようにしていく必要がありますが、それをしないままに県や市町村の教育委員会にしわ寄せがきているという、地域の行政担当の方が非常にご苦労されているという実情はよく分かるのですが、努力目標として次の年度が難しかったらその次の年度に加えるということでもいいですが、非常にプラットフォーム内で取り組みをする団体の割合だけではなくて、就学先不明の外国籍児童の追跡調査をしている市町村の数を増やすということをぜひとも目指していただければというふうに思います。民間や企業、市町村もそうですけども、取り組み団体が増えるということも大事ですけども、実際にどこにいるか分からない子ども。最悪、家に引きこもっている外国籍の子どもがいるという問題の解決に、実効性のある指標を設けていただければというのを願っております。そして、一番最後の「外国人、外国につながる子ども同士が出会い交流し助け合うことのできるコミュニティ支援、孤立の防止。」という私が申し上げた意見を盛り込んでいただけて本当にありがたいです。ここに地域との交流を入れればというご意見が出てくるのも非常に理解できる場所ですが、それにつきましては1点目の地域における相互尊重と共生のところ、第1点目ですでに触れられているところなので、4点目は当事者同士のエンパワメントということで、できる限りここに地域を入れないことを私はおすすめしたいと思います。以上です。

(進行)

野入先生ありがとうございました。それでしたら事務局からコメントさせて下さい。よろしくをお願いします。

(事務局)

ありがとうございます。指標ですが、就学、未就学というか外国籍のお子さんの学校に行っていない、そういう追加調査については色々とし市町村の状況も見ながら、確認しながらこれは来年度というか見直しのタイミングになるかもしれないですけども、入れられる方向を目指して、検討してみたいと思っております。県教育庁とも連携しながら検討します。外国の方が窓口に来て住民登録する際にお子さんがあるか確認した上で必要であれば外国の言葉でサポートする、日本語の指導ができる支援員を配置する枠組みができてきております。前は全然なく、徐々に良くなってきていると見ておりますが、やはり足りていないところもあると思いますので、ここはうまくできるような方向で進めていきたいと思っております。市町村連絡会議ということで 47 市町村全部 SDGs の窓口担当者を置いて会議を持っていますので、そういったところで意見交換もしながら市町村がしっかりついて来られるような形で、枠組みを検討してみたいと思っております。よろしく願いいたします。あとは当事者同士の考え方なのだという孤立を防ぐというところは重々理解しましたのでその方向で進めさせていただきます。ありがとうございます。

(進行)

ありがとうございました。それでは続いて教育というところで島袋委員、是非ご発言をお願いしたいと思います。

(島袋委員)

島袋です。小さいことと、小さいというのはちょっとおかしいですけども、9 ページの文言のことと、もう一つは全体の統合モデルの場所ですね。それに関して考えたことがありますので述べさせていただきます。9 ページですけども教育の中では 1 人 1 人がというのは先頭におきましてありがとうございます。今日お話ししたいのは下の方の充実した人生 100 年時代のところですがその中でキャリア教育リカレント教育が出てきていますけど、これは小、中、高校、大学でのキャリア教育と混同させるところがありますので、ここはここで、言われているのは社会人を対象としたキャリア教育、リカレント教育になっていると思いますので、この社会教育としてのキャリア教育、リカレント教育にした方が混同しないじゃないでしょうかというのが一つですね。

もう一つ下の方に行きまして、生涯学習の環境を充実する。これは分かりますが、その生涯教育の環境を充実するというのは同時に生涯教育を確立していくということだと思しますので、やはりここでは生涯教育と生涯学習。併記した形で入れた方がいいじゃないかなというふうに思います。よろしく願いします。

もう一つの点は一番最後の統合モデルですけども、よくできているなと思って今日この資料を見て感心しましたが、思うに例えば 23 ページの統合的な取り組みのモデルというのがありますが、これはむしろ 23 ページは事例というよりは、この沖縄らしい SDGs の目標

ですよ。そうなると思うんですが、そうしますとこれをこの統合モデルを主要統合モデルと各事例モデルというふうに分けて考えた方がいいじゃないかなと思います。だから、この23ページをできましたら最初の方に行きまして、4ページありますよね。4ページありまして、その右の方に(2)アクションプラン、(3)国のSDGsというのがありまして、その後にはこれは6になりますでしょうか。そこに沖縄らしいSDGsの目標として入れて、説明をした方がいいと思います。と言いますのは、このSDGsというのは、できるだけ環境の負荷を減らしてその上で社会的な発展と経済的な成長を目指すというふうになりますので、この辺を明確に最初の方で示した方がいいのではないかなというふうに思います。その上に、それぞれの具体的な項目を達成していただくだけではなくて、例えば分かりやすく言いますと、この統合モデルと言いますのは5+5が10ではなくて、5+5は10ですけど、5×5は25になるわけですね。そうするとその統合モデル相互作用強調することで、この目標の達成を促進できると。達成できるという視点をなんかこの辺りに入れてみたらどうかというふうに感じております。以上です。よろしくご検討お願いします。

(進行)

島袋委員、貴重なご意見ありがとうございました。まさにそう言っていただけてこの統合モデルの案を提示して良かったなというふうに今思っているところです。そうですね。前段の方に沖縄SDGs未来都市計画の中のモデルの絵ではありますけども、前の方に持っていくような形で検討していきたいと思います。先ほどご指摘ありました9ページの生涯学習の方もぜひご意見を基に修正をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。では続いて涌波先生、お待たせしました。お願いいたします。

(涌波委員)

私も今回非常にうまくまとまったなという感じがしてすごく嬉しかったです。なので、あんまり言うことは何も無いと言ったらあれですけど、7ページのところ、本当に小さなところではありますけど、7ページの1番ですね。平均寿命と健康寿命が延び、という健康長寿沖縄の復活というところで、指標が健康寿命だけになってはいますが、健康寿命って確かそんなに頻繁に出てこないんじゃないかなと思うんですね。数字が。だから、そこだけはもう少し例えば、特定健診の受診率であったり、これが取れるかどうか分からないですけども、喫煙率だったり、ああいうのはちょっとどっかでもう少し毎年分かるような物を入れられた方がいいのかなと。本当言うと飲酒量とか入れたいところですけどオリオンビールに怒られそうなので、そこが入れられないかもしれないんですが、そういう考え方があるかなと。

もう一つは2番のところは10万人当たり医療施設、医師数ではなくて医療従事者数にして、看護師さんや、一番私気にしているのは薬剤師数で、県内に薬大がないので、県内で育成ができないんですよ。薬剤師さん。だからいつも一生懸命みんな採っているところなので、そういう医師数ではなくて医療従事者数で少しカウントするというのはいいのかなと

という感じがしました。県内で無医村はもう今はないのかも分からないですけど、そういう無医村の率などを入れると、イメージが付きやすいのかなと。さっき事務局からの話で外国人への医療も課題ですよということを言っておられたので、医療通訳者みたいな、ああいったものを確保するとか何かそういったものも入れてもいいのかなという気はしました。私からは非常に今回いい感じでまとまっていて良かったなと思いました。ありがとうございます。

(進行)

涌波委員どうもありがとうございました。貴重なご意見ありがとうございました。本当に指標を立てる時に内部で非常に悩ましいところもございました。健康寿命とするのか平均寿命とするのか。おっしゃる通り、タバコの影響というのを入れてほしいというご意見があって、そこでタバコというキーワードも出させていただいたところです。先ほどおっしゃっていただいた在留外国人に対する医療通訳の話もまず前段の専門部会の方からはご意見を頂戴したところです。インバウンドでお客様がいらっしゃる時に医療通訳の問題ですごく着目されてきたところですが、このコロナ禍にあって、なかなか情報が発信、受け取れないというようなご意見もあって、そのところは保健医療部の方とも今現状を我々も把握してどういう対応ができるかというところを検討していきたいなと思っています。薬剤師についてもおっしゃる通りではあると思っています。事務局から検討状況をコメントしてもらいます。

(事務局)

医療関係のこの指標については非常に身近な問題なので、平均寿命ではなく健康寿命にしましょうというのは非常に方向性が合っていますが、おっしゃる通りデータの更新頻度とかが課題になっております。他に増やせないかというのは部局と相談をしてみたいと思います。

(進行)

検討させていただきたいと思います。次に大城委員、よろしくお願ひします。保育の質の量というところでご意見を反映させた文案を入れております。ご意見ありましたらよろしくお願ひいたします。

(大城委員)

ありがとうございます。よろしくお願ひします。私の方からは実現に向けたアクションと指標の関係というか少し気になるころがあったので質問をさせていただきたいと思います。6ページの方の優先課①の5番目の方で、アクションで「若者や障がい者を含めた全ての人々に対して」というところの指標がワークライフバランス認証企業数と沖縄県の人材育

成企業認証数というふうになっていますが、「障がい者を含めた」というところがこの二つの指標でしっかり見られるのかなというのが少し疑問に思いました。別の所で障がい者の雇用率というところもあったかと思いますが、そこも含めれば指標として見ることができるのか、それともう一つ何かを付け加える必要があるのかということが少し疑問に思っています。

続けて8ページの方ですね。子育てのところですが男性のところ視点を入れていただいております。保育の分野だとずっと待機児童の問題というところが取り上げられているので、指標も待機児童数ということがあげられていますが、もう待機児童に関しては減少傾向にありますので、これからは質の問題というところなので、指標に質の問題というところを入れていただいた方が良いのではないかというふうに思っています。箱物がちゃんとある。そしてそこにちゃんと保育者が入っていて、質が充実している。だからこそ、ここで子育てをしたい。という繋がりというか。「だからこそこの地域だ」とか、またその目標に向かっていくというふうに見えるためには、やはり質の問題というところが取り上げていただく必要があるのかなというふうに思いました。また、教育のところかなと思いますが、もう少し障がいのある子どもたちや支援の必要な子ども達に向けての保育とか教育の充実が、一つ項目として立てられるのか、立てられないと埋もれてしまう感じがしていて、そういうところがしっかり出していただけると県民1人1人がしっかりそこに課題意識を持ってという所にいけるかなと。そういうことが誰1人取り残さないというところにきっと繋がっていくのかなと思うので、教育のところにも載せていただくと良いかなと読んでいて思いました。以上です。ありがとうございます。

(進行)

貴重なご意見ありがとうございます。そうですね。支援の必要な子どもたちへの課題を県民全体で共有して取り組めるようなアクションを、検討の必要があるなどご意見を聞いて思いました。事務局の方からコメントをさせていただきます。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。まずワークライフバランスと人材育成企業認証数が指標としてというところはおっしゃる通りで、この辺は労働環境を誰もが生き生きと働ける労働環境を目指してほしいという、政策誘導的な観点を持っていてそういう観点でワークライフバランスというのは働き方改革的な要素を求めていますし、人材育成というのは企業の中で人を育てていく、生き生きと働ける、そういう観点で企業を認証しているという制度でございます。この中に障がい者の視点が入っていないのはおっしゃる通りで、色々と他に何か指標がないかというのはまた検討させていただきつつ、障がい者雇用率の指標もあってそこを加味しながら見ていくというところも視野に入れながら、ここもう少し情報収集させていただいて、今回のアクションプランの取りまとめのところで入れられるかどうかと

というのは自信がないところですけども、毎年見直していくという観点からすると引き続き研究させていただければと考えております。

もう一つが保育の件です。保育の質を測る指標。これもどういった指標で、どういった統計データでやっていくかというところは研究させていただければと思います。大城先生とはその辺専門的な観点で意見交換をどこかでさせていただければと思っております。質を測る統計データというのがなかなかない可能性もあって、改めてやるのかどうかということも含めて中でも検討したいと思っております。教育の件でインクルーシブ教育という言葉もありますけど、沖縄県の方もインクルーシブ教育は関心を持ってやっていて、十分じゃないところもありますけど、学校施設面で少しずつバリアフリー化みたいな話もあれば真和志高校にそういった新しい機能を設置したり、色々な取り組みが始まっているところでもありますけども、教育現場でそういった観点をというのは大事かなという考えもありますので、アクションとして追加できないかどうか少し検討させていただきたいと思っております。

(進行)

ありがとうございます。では皆さん貴重なご意見ありがとうございます。一巡しましたので、ここからは手上げでここ追加したいとかあれば何でもよろしいです。これに限らず日頃思っていることとか、推進室にこういったことをやるべきではないかというご提言でも構いませんので自由によろしく願います。いかがでしょうか。では、野入先生願います。

(野入委員)

資料2の優先課題②-6、生活困窮世帯の子ども世帯の支援、管理の枠組み充実というところで、指標が沖縄子ども調査による困窮世帯の割合とか、沖縄子どもの未来県民会議サポーター会員数というところになっていますが、これについては既に国がやっている例えば母子家庭のお母さんを雇った企業に、年間60万助成金が出るとか、そういったひとり親世帯の、特に母親支援の助成金を採択した企業の数みたいなものを付け加えて、この助成金を知っている企業が本当に少ないので、周知を図るという意味でもそういう指標も加えていったらいいんじゃないかと思いました。

(進行)

貴重なご意見ありがとうございます。そうですね。やはり困窮世帯の中でも特にひとり親家庭が厳しい状況にあるというふうに我々も認識しております、その指標についてはまた部局とも調整をしながら検討させていただきたいと思っております。ありがとうございます。今回子ども調査による困窮世帯の割合ということはこの暫定値ということで子ども未来政策課の方から収集しまして入れた数値となります。島村先生手を上げていただきました。どうぞ

よろしくお願いします。

(島村委員)

野入先生言ったので、ちょうどその調査ウチがやっぴまして中間的な報告を差上げた結果この暫定値が出ていますが、これは調査の時間と現実とのズレはまあありますよね。はっきり言うと、まだこんなに良くないです。貧困の状況って。そして今野入先生がおっしゃったところていうと母子家庭のところ。これは沖縄の面白い検証があるのが、沖縄の母子家庭と、それからいわゆるひとり親家庭と、一般世帯と言われている人たちがいてその差が県外と比べたら非常に少ないのです。所得面においても。これがなぜなのかという、実はこの沖縄の貧困問題の本筋は、男性で一般企業に勤めている人たち。いわゆる正社員ですね。その人たちの収入が低いところてです。これが大きな原因になって貧困率が上がっているというのはデータとしてしっかり出ていて、こういった問題解決しないと、実は全然貧困問題解決しませんね。さっきの統合モデルの中に、経済界の絵が出てきていて、経済界がどういふ努力をするかというところも問われているけども、そこに本質的に所得を上げていくような構図というのがまだしっかり打ち出せていないなと。これは非常に懸念している点てです。これで解決しますよと言われると僕は違ふなという印象を持っています。そして、野入先生がおっしゃったひとり親に対する支援という数値、指標にあげてはどうか。本当にそうだと僕も思いますが、一方でこの貧困問題の中に保育所の問題とかいっぱいあるけど、子どもをしっかりと育てるだけのモチベーションというか、そういったものを貧困家庭がなかなか持ちにくいという。預け先にも苦勞するし、周りに相談することもしづらいし、かといって誰かが代わりに見てくれるかというシステムも不十分なので、ここのところてはもうちょっとしっかり書き込まないといけないなと。この子どもの貧困に関する問題点に関しては、大人の貧困なので。その観点もう少し打ち出してほしいというものはあります。

もう1個言わせてもらうと、子どもの権利という観点がちょっと薄いてですね。やはり何か問題なのかという、子どもの権利条約12条にいう意見表明権みたいなものがしっかりと捉えられていないなと思ひます。そこをどこで捉えていくのかなと。SDGsの重要なポイントって国際潮流もしっかりと取るところだから、子どもの権利条約、それから障がい者の権利に関する条約というところの意識がもう少し出てもいいなと。その中でインクルーシブ教育の話をおほほど大城先生言ってくれたのは、非常に正しいてです。インクルーシブは中心概念の一つてですね。そういったところからもうちょっとどうにか目標値を加える必要はある。欲張りすぎるとぼんやりしちゃうので、これは事務局にお任せしていくしかないてですけど、これは指摘をしていきたいなと思ひました。

(進行)

島村先生、野入先生ありがとうございました。まさに大人の貧困、子どもの貧困は大人の貧困と言われているというところてで正社員化、非正規雇用ではなくてその賃金をどう上げて

いくつかというのが非常に課題であるというふうに考えています。子どもの権利という点での目標の入れ方も少し工夫をしていきたいなというふうに考えています。ありがとうございます。野入先生大丈夫でしょうか。ありがとうございます。そうですね。ひとり親への支援というところで、先ほど優先課題の②-6の中に優先課題②-3に対してもひとり親家庭などという記載はありますがその中でもアクションで6番の方にもひとり親家庭など保護者に対するサポートも充実するということは併記をさせていただく形で入れていますが、指標についても関係部局と検討をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。では、事務局からコメントがあります。お願いします。

(事務局)

大人の貧困のお話もありまして、所得向上というのは沖縄の課題の非常に根幹的な問題であり、県民所得の向上というのは大きな命題ですが、当然徐々に徐々に全国と同じようにならなかってきてはいますが、全国格差はまだまだ大きいというところがございます。まだまだなかなかこれを具体的に上げていくという明確な方策というのはなくて、ありとあらゆることをやっていくというところではないと考えています。デジタルトランスフォーメーションの話がよく最近出ていて、労働生産性を上げていくというような観点が出てきているということと、引き続き人材育成が必要だというそこに入ってきているかなと思ったりしています。ただ、最近政府の方も所得分配のところには必ずかなり意識を持っていて、新聞報道等でも沖縄振興計画の新しい税制の中では所得向上、所得を上げていく、給与を上げていくというところを条件にするだとか、国土交通省が全国的に公共工事に関して所得向上を促す動きが出ていて、効果につながることを期待しています。今来年度から始まるような新たな振興計画だとかいう労働生産性の向上と、あと所得を上げていくというところ、稼ぐ力とかいう言葉を使っていますけども、いろいろと取り組んでいくという方向が一応出てきてはおります。今後、具体化、シャープな方向性が出てくるといいなと思っています。共有して、経済界の役割というのは非常に大きいので、意識を持っていただくという観点で明記していく、何かもう少し分かりやすく明記していくことでやっていきたいなと思っています。

(進行)

事務局ありがとうございました。それではその他の委員の皆様いかがでしょうか。今のお話を受けてでもよろしいですし、全体を通してこの点、もしくはモデル事業今回五つ提案しましたけども、やはりキーワード的なものをやはり入れておいた方が良くはないのかというものがありましたらよろしくお願いします。よろしいでしょうか。残りもわずかになりましたけども事務局の方からお知らせ事項を報告したいと思います。お願いします。

(事務局)

第1回でもさせていただきましたが今回も時間も限られているのと情報量が多いので改めて書面で後ほどこういう意見をいただくということも可能なように、様式を改めて送らせていただきたいと思います。後ほどでも結構ですので、また追加のご意見等いただければと思っております。

これは会議とは関係ないところで大変恐縮ですけども、今度の3月8日ですね。来週の火曜日になりますけども、ちょうどシンポジウムをさせていただく予定になっています。北村先生と東京大学の教授の方が基調講演をされますがこの方はもともとユネスコにいらっやってSDGsができる頃にパリの方でご活躍されていた方で、SDGsの裏事情なんかもうご説明いただけるのではないかなと。実際SDGsってよく見ると文化面が全然入ってなくて、文化って何で入っていないのだろうなと思ったら、講師の方からは、ユネスコが入れ忘れたという、こんな裏事情もあるみたいです。もう一つは資料共有させていただいて、こんなフォーラムも今度やる予定をしております。3月末で本当に忙しい時期にわざわざこんなことやるのも恐縮なんですけども、基本的にYouTube配信ですのでどこでも見られるということで、ジャパンSDGsアクションフォーラムというのもやる予定です。これはいろいろこれからフライヤー、ホームページ等いろいろなところで発信されると思うんですけども、チャンネルも二つあってかなり幅広くいろんな方々が登壇する予定で、沖縄県は広域自治体のところでこういう官民連携で子どもの貧困対策というのをご紹介することになっていて、ウチの島津室長が登壇するかなと思っていたんですけども、何かまた若い方々が参加するのが大事だということで、県庁の30代の若手がプレゼンテーションをすることになります。あと富田さんというフードドライブをやってらっしゃる企業の代表の方も登壇いただく予定にしています。もしよろしければご覧いただければありがたいなと思っています。これは実は趣旨としてはこういう協議会ですけども、セブンアイホールディングさんとか、そういった協賛企業さんと一緒に事務局は神奈川県を中心に、我々も参画してやっておりまして、SDGsを推進するにあたって本質的なところで言うと、基礎自治体、市町村がやっぱり役割本当は大きいだろうなと住民生活に近いところがありますので、公益自治体として都道府県に何ができるの？という市町村と連携しておくということも当然ですけども、県外とのチャンネルを作っていくということも大事なかなと。沖縄の情報を全国に発信していくということも重要ですし、全国から関わる人たちを沖縄に引き込んで来るというのも重要なかなと思っています。子どもの貧困対策をPRしながら企業版ふるさと納税とか寄付金の募集なんかも頑張ってみようかなと思っています。こういった枠組みの中で神奈川県、他の県とも連携しながら、県内の優良事例なんかもホームページを通じて全国に発信していこうという動きになっております。色々と呼びかけ情報収集させていただきますが、そういった県内でSDGs地域課題の解決に取り組んでいらっしゃる方々の紹介ということでまた適宜お気づきのところがあれば、情報提供いただくと非常にありがたいなと思っています。我々の方で取材をして、写真も撮って議事を作ってホームページを

アップしていくという作業になりますけども、ご協力いただける方も色々探しているところですよ。よろしくお願いします。

(進行)

島村先生リアクションがありました。よろしくお願いします。

(島村委員)

すいませんが終わる前ですけども、もうちょっと確認というか質問という感じになりますが。実は昨日ちょっと市も言ってもいいかな？浦添市に行って子どもの貧困対策の計画その指標に話になりました。これの話をするのは県が子どもの貧困対策の指針を出しました。たくさん。42 出しました。浦添市というローカルなところではもう少しレベルダウンしないといけないわけじゃないですか。同じ指標を、市当局はその指標の中から浦添市が持っているデータがあるやつだけピックアップしようという、十いくつか出していたんですけど、それを出した瞬間に、これ面白い話だけど学校の校長先生が「うちの中学って何をすればいいの？」ってなっちゃったわけ。これ良い例だなと思ったんです。指標というやつは、トータル最終結果なんですよね。あくまでも。だけど、みんなは取り組み何をすればいいかという、そっちに行きたいわけ。だから、アクションできるものというのを考えていくというか、提供してあげるというのかな？議論していくというか。そういうのは重要なことなので、ここをどこでどうやろうかという筋書きとかいうのも描いてもらいたいということですね。それも考えておられるんだったらそれでいいと思うんですけども、そこをちょっとだけ最後に申し上げたかったです。

(進行)

貴重なご意見ありがとうございます。そうですね。ここ非常に悩ましい件ですが、この取り組みをすればここが分かりやすく良い指標があるというのは一番いいかなというのは思っていますけど、言葉になっていませんが事務局いかがですか。

(事務局)

ありがとうございます。ちょうど昨日のこのパートナーシップ部会の中でも、意見があって、視点が違うかもしれませんが「自分事という視点が大事なんです」というコンセプトを前半に入れているんですけど、その割には県民レベルで言うと何をしたいか分からんと。これを見てですね。こういう意見がありました。おっしゃる通りで、自治体とか企業の方が見ると少し分かるかもしれないですけども、一般県民の方にとって誰がこの中で何をすればいいのかというのは分かりづらいと。ここはまさに課題で、今、今後にわかにならずこれをコンテンツとして作れるかという、時間的余裕がないので、今後の見直しの中でこの中にどう見せていくか、もしくは統合的モデルの中に入れていくか。それもまた分かりづらいか

なと思いながらも考えてはいますが、アクションプランの見直しという考え方が一つあるのと、もう一つはこういった資料をさらに分かりやすく周知する資料というのをまた作る、パンフレットとかそういったものは作ることにになりますので、その時に県民視点というのは、アクションというのを見える化していく、分かりやすく伝えていくというところもあるかなと。今、普及啓発ツールの中でそういったことを示していくという方法で行くか、それともこの中で新たに追加して充実させていって県民視点でのアクションというところも整理するか、これは検討中ではありますが、何かしら対応してみたいなと思っているところです。

(島村委員)

今の時点はそうだなと思うので、ステークホルダーという人が動いてナンボの世界になっていますよね。このステークホルダーの人たちに考えてもらえばいいかなと僕は思っている。こういうふうにやろうよというのは、そういう何か動きが重要な要素かなと思います。

(進行)

まさにそうで、どんどんアイデアを出してみんなで集まって連携して「こういうのやっ
ていこうよ、こうやってやったら方が達成につながるんだ。」という意識が大事かなと思っ
ていますので、プラットフォームの中でステークホルダー会議などもやりながら、ぜひ専門
部会の先生方にご参画いただきながら、ご助言いただきながらみんなで作り上げていただ
けたらなというふうに思っております。ありがとうございます。そろそろお時間になりました
。先ほど事務局からありました通り、また意見表のようなものを送りますので、ここで言
い足りなかった点がありましたら、メールでお寄せいただければと思います。ありがとうご
ざいます。

(事務局)

議事概要を我々の方でまたまとめて見ていただいた上でホームページに公開させていただ
きたいと思いますので、大変ご多用だと思えますがよろしく願いいたします。また後ほど
様式をお送りしますので、書面で意見もいただけると幸いです。それでは以上をもちまして
今回で令和3年度第2回SDGs人間専門部会、People専門部会、終了させていただきたいと
思います。お忙しい中ありがとうございます。